

長野県神城断層地震の経験から～JRATとしての役割の改善～



輝山会記念病院 清水康裕 (リハ医)

長野支部は平成25年秋から活動開始

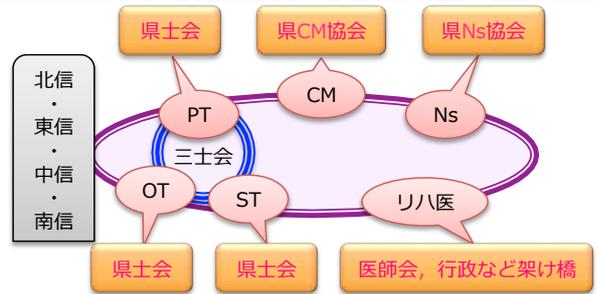
- メンバー：リハ医, 看護師 (Ns), 理学療法士 (PT), 作業療法士 (OT), 言語聴覚士 (ST), 介護支援専門員 (CM)

地域特性の問題点

- 長野県は広く, 山間地帯に囲まれ, 交通機関が乏しい (リハ関連職種の交流が乏しい状態)

問題解決策

- 定期的なミーティング
- 行政への働きかけ, 各関連団体へ啓蒙活動



長野JRATの構成と役割

長野県神城断層地震

発 生：平成26年11月22日 (土曜日)

午後10時08分頃

震 源：長野県北部

規 模：マグニチュード6.7

震 度：小谷村6弱 白馬村5強

人的被害：死者0人 重傷者8名

住家被害：全壊81棟 半壊167棟



【経過】

11/25 (火曜日)

長野県健康保健福祉部にメールで連絡
JRAT事務局から安否確認

11/27 (木曜日)

対策本部に訪問, JRATの趣旨説明
白馬村と小谷村に訪問

11/27白馬村の申し送り内容

- 水道, 電気は徐々に改善
- 医療機関, 学校, 商店など通常
- 宿泊施設 (ホテルなど) が多い為, 入浴など可能
- 仮設住宅の相談
- 医療体制も検討会あり
- 要介護者は施設入所や入院で対応済み
- 日中は片付けで避難所にはいない
- 住民の結束があり種々の話がスムーズ
- 結果として, リハ介入は必要なし

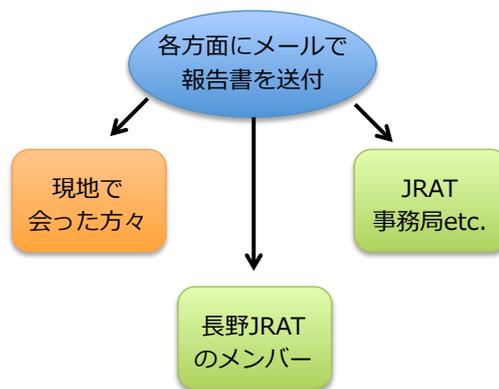


小谷村：小谷村役場

- 避難所は6ヶ所で2~47人
- 避難所が多く, 保健師の方々も手一杯
- 高齢者が多い
- 要介護方々は入所, 入院で対応済み



11/28 (金曜日)



11/29 (土曜日)

長野JRATのメンバーが再度現地へ

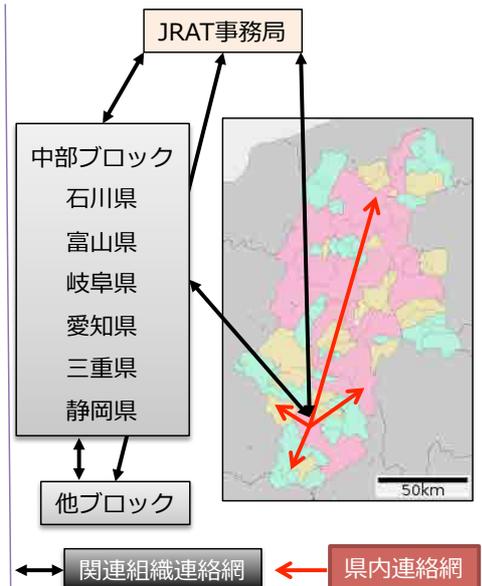
- 医療チームは11/28撤収
- 避難所は, 縮小していくとの事
- JRATのリハ活動については理解していない印象

《問題点》

1. 保健師との継続的な連絡
2. 現地で勤務しているリハ職員との連絡
3. JRATの活動内容が不明瞭

【結果】

- 長野県神城断層地震後, 現地調査に行き, JRATの派遣等の必要性はなかった
- 情報収集, 連絡網, 介入までの到達, 啓蒙活動などの問題点があり, ミーティングを開催
- 「活動」となった場合の想定も必須
- 周辺地域 (中部ブロック; 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県) との情報交換の必要性あり



【まとめ】

- いつ起こるか分からない災害
- リハ関連職種の介入を想定して, 都道府県の各施設の協力・連携が必須
- 都道府県ごとの行政を巻き込んだ啓蒙活動も必要と思われた